

## 生活について

- Q1. 館内では上履きが必要ですか？また、交流の家で借りることはできますか？
- A. 館内での生活には上履きが必要となります。利用者への貸出用スリッパ等はありませんので、必ず上履きをご持参ください。忘れた場合は購入（売店にて300円程度）していただきます。
- Q2. 滞在中に体調不良になった場合、薬をもらうことはできますか？
- A. 交流の家の休養室には内服薬の備えはございません。団体に必要と思われる医薬品（常備薬）につきましては、各団体でご持参ください。  
なお、体温計や絆創膏・医療用の氷については、事務室にてご相談ください。
- Q3. 滞在中に洗濯はできますか？
- A. 館内には洗濯機・乾燥機がそれぞれありますので、就寝時間を除いてご利用いただけます。  
なお、洗濯機（7kg・1サイクル）・乾燥機（4.5kg・40分）は各100円の使用料が必要になります。（両替機はございませんので、100円硬貨をご準備ください。）
- Q4. 滞在中に交流の家との打合せ会はありますか？
- A. ○入所時に事務室にて研修期間の日程等の確認を10分程度おこないます。  
○毎日16時40分から各団体の代表者が集まり、オリエンテーション室にて代表者会を15分程度おこないます。  
○スキー学校の指導員を依頼している場合は、指導員全員・交流の家職員と団体のスキー研修担当者が、初日のスキー研修に入る前と毎日朝9時及び12時30分に打合せ会をおこないます。
- Q5. 利用申込書記入の際、子どもの保護者が同伴するときは引率者扱いですか？
- A. 引率者とは、団体の代表者・指導者・担当者とし、保護者は付き添い者と考えますので、申込書の参加者内訳の社会人又はその他欄にご記入ください。
- Q6. 前夜発で早朝に入所したいのですが？
- A. 9時00分以降受付となっています。また、食堂での朝食利用はできません。
- Q7. 入所式・退所式は必ず実施しなければいけませんか？
- A. 必須ではありません。入所式・退所式をおこなう場合は団体側で司会・進行をお願いします。  
なお、入所式がない場合でも生活オリエンテーションの冒頭で青少年交流の家職員が歓迎のあいさつをさせていただきます。退所式をおこなう場合は、皆様に青少年交流の家からお礼の挨拶をさせていただきますが、退所式をおこなわない場合は省略させていただきます。
- Q8. バスの乗降場所は玄関前で良いですか？
- A. 玄関前はスキー講習場所となりますので、原則として立ち入りできません。駐車場から荷物を持って徒歩で入所してください。駐車場から玄関までの道路に積雪がある場合は玄関内にある荷物運搬用のソリ（赤い大きなソリ）をご利用ください。

- Q9. 生活オリエンテーションの時間を短くできますか？
- A. 15分から20分程度の説明をいたします。オリエンテーションは青少年交流の家での生活をおこなう上で非常に重要ですので、利用経験者が多い団体等や、事前に当施設の生活オリエンテーション用CDにより指導をおこなった団体を除き簡略化していません。
- Q10. バスの運転手の宿泊は可能ですか？
- A. できません。  
ホテル等と違い運転手の優遇はありませんので、安全運転業務のことを考え、他の宿泊施設のご利用をお願いします。
- Q11. シーツの受取りはいつですか？
- A. ベッドメイキングは、就寝時間までにおこなってください。必ずしも生活オリエンテーションのすぐ後におこなう必要はありません。  
シーツは団体毎に分けてありません。まとめて置いてありますので、必要枚数を各自で運んでください。枕カバーのみ団体毎に表示してありますので、そちらからお持ちください。(1人分 枕カバー1枚・シーツ2枚)  
シーツの返納については、シーツを各部屋毎に紐で縛って返却していただき、枕カバーは、シーツ室の枕カバー返納コンテナに入れてください。
- Q12. アレルギーへの対応はどうなっていますか？
- A. 寝具の枕は、パイプ枕を使用しています。  
食事のアレルギーについては、「Q24. 食物アレルギーの対応について」をご覧ください。
- Q13. スマホは利用できますか？
- A. 使用可能です。(a uは、一部のみ)
- Q14. 入浴時間の他団体との調整はどうなっていますか？
- A. 青少年交流の家では団体毎(学校団体を除く)の入浴時間の振り分けをおこなっていません。必要なときは団体間でご相談ください。  
お風呂には、洗面台(蛇口・シャワー)が大浴場(女子)に22個、中浴場(男子)に21個、シャワー室に各3個ずつあります。1クラス単位(40人前後)での入浴が可能です。
- Q15. スキー乾燥室の割り振りはありますか？
- A. 宿舎割りと一緒にスキー乾燥室割りをお渡しします。  
スキー板用の棚・スキー靴用の棚共通で、一つの番号に2名分を収納します。
- Q16. 入所に使ったバスは、運転手が下山するため滞在期間中動かさせません。他に交通手段はありますか？
- A. 高山市が運行しているデマンドバス(利用の手引き P13参照)、あるいはタクシーをご利用ください。また、団体で車両を用意されますと緊急時には有効です。  
ただし、夜間の自家用車での移動は路面凍結などがあり大変危険ですので避けてください。
- Q17. 室内の温度はどのようになっていますか？
- A. 宿泊棟はおおむね19℃から20℃に設定しています。ただし、利用者が屋外に出ている日中や就寝後は暖房を停止しています。夜間の暖房は22時に止め、翌朝6時30分に再開いたします。朝の宿泊室の室温は12℃前後になります。  
利用される部屋毎に暖房しますので、日中でも使用予定がない部屋は10℃以下

となっています。

Q18. 本部室の備品は何がありますか？

- A. 金庫・冷蔵庫・テレビ・内線電話・電気ポット・机・椅子・ソファ・掃除機があります。  
流し台があり、湯のみ茶碗が置いてありますので、お茶・コーヒーなど持参してご利用ください。

Q19. 鍵の掛けられる部屋はありますか？

- A. 本部室（金庫付）・リーダー室・講師室（金庫付）があります。  
本部室は3室あり、割り当てた団体には鍵を貸出します。  
リーダー室の鍵は希望のある団体にお渡しします。その他の宿泊室には鍵はありませんが、内側からは施錠できます。  
貴重品は、宿泊棟2階にあるコインロッカーで管理してください。

Q20. 退所日の部屋点検は、いつおこなえばよいですか？

- A. 通常は、朝8時35分から9時前後におこないます。入れ替わりの団体が入ってくるため、体育館・講堂・研修室を荷物置場として使用し、スキー実習に出かけることとなります。着替えは荷物置場となった研修室等でおこないます。

Q21. 迎いのバス（退所時）の到着は、いつごろがよろしいでしょうか？

- A. バスは、退所当日の朝、もしくは日中のお迎えをお勧めします。

## 食事について

Q22. 入所時に交流の家の食堂での昼食は可能ですか？また、持参弁当を館内で食べることはできますか？

- A. 昼食時間を超えると食堂利用ができません。降雪期は予期せぬ渋滞により食事時間内に到着できないこともありますので、弁当持参をお勧めします。  
持参弁当の場合は、食堂は使えませんので、講堂・体育館などを利用してお召し上がりいただきます。

Q23. 食事時間の他団体との調整はしていただけますか？

- A. 青少年交流の家では団体毎（学校団体を除く）の食事時間の振り分けをおこなっていません。必要なときは団体間でご相談ください。  
食堂はバイキングラインが4レーンのとき、学校の1クラスが5分で入りますので、団体相互や班（クラス）と班（クラス）の間をあまり空けないように、少し待つくらいで時間調整すると良いでしょう。

Q24. 食物アレルギーへの対応はどうなっていますか？

- A. 食事の献立表及びアレルギー表は、2ヶ月分をホームページに掲載します。アレルギーにも種類がありますので、食堂担当者にご相談ください。  
食事で蕎麦を使った物はありませんが、麺類等の製造過程で混入する場合がありますので、詳しくは食堂担当者に確認をお願いいたします。

Q25. 昼食はどこで食べたらいいのですか？

- A. 原則、入所から退所までの食事場所は青少年交流の家食堂ですので、昼食は、スキー場から青少年交流の家に戻って、お召し上がりください。

Q26. ゴミの処理はどうなっていますか？

- A. 青少年交流の家は自然に優しい施設をめざしています。持ち込んだものから発生したゴミは、持ち帰りにご協力ください。また、持参弁当を除き、飲食物の持ち込みはご遠慮ください。

## プログラムについて

Q27. 研修に使用できる部屋数や活動できる部屋・施設はどのようにして決まりますか？

- A. 各利用団体の活動内容によって、青少年交流の家で調整します。  
所定の申込書が集まったところで青少年交流の家で調整プログラムを作成し、各団体にFAX又は郵送にてお知らせします。  
最終的には、入所時の受付や毎日16時40分からおこなわれる代表者会議でご確認ください。

Q28. 気象条件でスキー実習ができないことがありますか？スキーができないときの活動はどうしますか？

- A. 例年、12月20日から翌年3月31日の間に雪がないことはありませんが、青少年交流の家付近の積雪が少ない場合でも、飛騨高山スキー場内は人工雪で運営していますので、滑走可能です。  
青少年交流の家付近の積雪が少ない場合は、初心者の方の練習場所となる緩斜面がある場所は飛騨高山スキー場のリフト乗り場付近になりますので、移動手段として往復にバスをチャーターする必要があります。  
また、まれに大雨や猛吹雪となりリフトが運行しないときなどは、当日の朝、交流の家職員にご相談ください。

Q29. 屋外で使用しても良い用具はありますか？

- A. そり30個・かんじき110個・スノーシュー35個・コーン10本・スコップ30本・その他ボールなど濡れても良いものは、持ち出し可能です。  
また、運動靴の上に履く、防水のオーバーシューズ（長靴の代用）が300足程度あります。（各個数については、変動があるため、事前にご相談ください。）

Q30. ウェア受取り及びスキー合わせ所要時間はどれくらいかかりますか？

- A. 100人 45分位  
200人 90分位

Q31. レンタルスキーは、少人数でも借りられますか？また、小さいサイズなどにも対応できますか？

- A. 少人数から対応しています。レンタル業者が要望をお伺いして個々に対応しています。小さいものや大きいものについても同様に対応しています。

Q32. リフトを1回しか乗らない場合の精算方法はどのようになっていますか？

- A. 飛騨高山スキー学校の指導員が付き添うときは、精算表の記入を指導員がおこないますので、朝・昼のスキー打ち合わせでリフト券について打ち合わせをおこないます。  
青少年交流の家に向かう高速ペアリフトは1回券2枚分（520円）が必要です。あらかじめ1回しか乗らないことが分かっている場合は、指導員が精算表の半日券のところを1回乗車と訂正し乗車します。  
また、1日や半日の精算表を提出した後、けが等で途中からリタイアする人がいた場合、指導員とリフト係員に申し出ることでその分安くなります。

- Q33. スキー学校の指導員は半日でも同じ料金ですか？  
A. 団体の場合は、半日料金はありません。1日料金となります。
- Q34. スキー実習及びスノーボード実習のグループ編成はどうしたらよいでしょうか？  
A. スキー実習においては中学・高校生が対象の場合はおおむね12～15人編成で、スキー経験別（能力別）が一般的です。そのほか、男女別・男女混合・組や班別など団体のねらいや事情で組んでください。なお、小学生低学年は少人数（5～6人）で編成してください。  
スノーボード実習においては1班あたり7人までで編成してください。（スノーボードの場合ヘルメットの着用が義務付けられています。）
- Q35. 障害者のスキーリフト乗車料金についてはどうなっていますか？  
A. 飛騨高山スキー場に事前にお問い合わせください。
- Q36. 自由滑走は認められていますか？  
A. 団体のねらいに添って実施していただきますので当然可能です。ただし、自由滑走は事故が多くなる傾向にありますので、団体側で事前の安全指導やゲレンデ内に引率者を配置するなど安全確保に十分な配慮をお願いいたします。  
なお、飛騨高山スキー場内の林間コースは滑走幅が狭いため、危険防止のため滑っている人を追い越さないでください。
- Q37. スキー合わせの後、団体引率者による歩行練習等の指導は可能ですか？  
A. 平地でも転倒はけがに繋がりますので、スキー経験豊富な引率者が付き添って実施してください。この場合のレンタル用品の使用は、レンタル料金の支払い対象となりますのでご注意ください。（スキー靴を履いて雪遊び等をする場合も支払い対象となります。）  
スキー合わせのみはレンタル料金に含まれません。
- Q38. リフトの半日券の時間はどうなっていますか？  
A. 午前は13時まで、午後は12時からが半日となっています。
- Q39. 夜に歴史文化や自然に関する講話を外部講師に依頼したいのですが？  
A. できません。  
冬期の夜は路面が滑りやすく通行する車もないことから、講師の安全を考えおこなっていません。
- Q40. たいまつ滑走のようなことや雪上ファイヤーは実施可能ですか？  
A. たいまつ滑走はできません。  
雪上ファイヤーについては、具体的な活動内容をお伺いして対応いたします。
- Q41. 夜のプログラムはどのようなものがありますか？  
A. 日中にスキー実習をした場合は、疲れをとることを考えて夜はゆったりとしたプログラムが良いと思います。手紙を書くことや、DVD鑑賞（スキー・自然・文化歴史物等 貸出可能）等が考えられます。  
なお夜のプログラムで外の活動を考えられる場合は、危険が伴うことがありますので、具体的な活動内容や活動する人数等をお伺いして検討させていただきます。（夜のプログラムでは、そり遊びは許可しておりません。）

Q42. 雪上キャンプ（幕営や雪洞）をおこないたいのですが？

- A. 登山部や警察などが実際におこなったことがあります。時期・天候に配慮し、装備・技術と経験豊富な指導者を要して、体力のある少人数編成でおこなうことなどを考慮すれば実施できるのではないのでしょうか。装備は団体でご準備ください。ただし、スキー実習とキャンプという組み合わせは、健康上好ましくありません。

Q43. スキー実習ができない生徒に対して、DVD等を見せることはできますか？

- A. 可能です。交流の家にも若干ソフトがあります。ご持参のDVDを鑑賞する場合は、事前にお問い合わせください。なお、ブルーレイディスクや地上デジタル放送を録画したものは使用できません。

Q44. スキー以外にできる活動は何がありますか？

- A. 屋外での活動は、そり滑り・チューブそり・かんじきやスノーシューを使った雪上ハイキング・雪像づくりなどがあります。このような活動をされる場合は、活動エリアを指定させていただきますので、受付時に必ずご確認ください。また雪像づくりをする場合は活動後に雪像を壊し、できるだけ雪を平坦にさせていただきますのでご了承ください。室内では木工クラフトなどの創作活動（利用の手引き・P20参照）・ボランティア活動・読書などがあります。

Q45. 雪上運動会のようなプログラムを考えていますが？

- A. グラウンドの斜面を使って、そりやチューブ滑りと組み合わせた競争をおこなうことや、宝物探しのゲームなど楽しい種目をお考えください。